

## 第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

### 報告書資料 一般-93

学校名・団体名	徳島市渋野小学校
HPアドレス	<a href="http://e-school.e-tokushima.or.jp/tokushima/es/sibuno/html/htdocs/index.php?page_id=0">http://e-school.e-tokushima.or.jp/tokushima/es/sibuno/html/htdocs/index.php?page_id=0</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	学校・家庭・地域社会が関わり合い、 持続可能な社会づくりの担い手を育てる教育 ～ ESD（持続発展教育）の視点を取り入れた 未来の町づくりプランの実践 ～
<b>〈活動・研究の意義、目的〉</b> 渋野小学校は徳島市南部に位置し、勝浦川や広大な湿地等の豊かな自然環境及び国の史跡である渋野丸山古墳や重要文化財に指定されている丈六寺等の文化財を有している。この地域の宝をESDの視点で教材化し、子どもたちに「ふるさとへの愛着と誇り」を育む一連の学習プログラムとして実践することによって、その有効性を検証する。また、校内にデジタルサイネージを活用した「学びの廊下（通称名）」の設置が、学校・家庭・地域社会が互いに情報を共有し、共に学びあう地域協働推進にどのように寄与するかを検証する。	

学校・家庭・地域社会が関わり合い、持続可能な社会づくりの担い手を育てる教育  
～ESD (持続発展教育) の視点を取り入れた未来の町づくりプランの実践～

### 1 はじめに

学校の役割は、学習指導要領の理念である「生きる力」をはぐくむことである。ただ、子どもの「生きる力」は、多様な人々と関わり、様々な体験を重ねていく中でよりはぐくまれるものであり、学校のみではぐくめるものではない。また、近年の社会の変化に伴い、多様化・複雑化するニーズに学校の教職員の力だけで対応していくことは困難となっており、学校がその目的を達成するためには、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深める必要がある。

そこで、本校では ESD の視点を取り入れ、学校・家庭・地域社会が連携し、子どもの「生きる力」を育む未来の町づくりプランを展開している。ESD (Education for Sustainable Development) は、「持続可能な開発のための教育」「持続可能な社会をつくるための教育」「持続発展教育」等と訳されており、児童に「思考力」「情報活用能力」「コミュニケーション能力」を身に付けさせながら、「人間の尊重」「多様性の尊重」「環境の尊重」という価値観を培い、市民として参加する人間の育成が目指されている。これは、「生きる力」に通じるものであり、現代的な教育課題といえる。次の表は、「生きる力」と「ESD を通じて育みたい能力」をまとめたものである。これらと比較すると、「ESD を通じて育みたい能力」は、「生きる力」としてとらえられている力と重なる部分が多いことがわかる。

#### 生きる力

- (1) 基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用して、自ら考え、判断し、表現することにより、さまざまな問題に積極的に対応し、解決する力
- (2) 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- (3) たくましく生きるための健康や体力

#### ESDを通じて育みたい能力

- (1) 自分で感じ、考える力
- (2) 問題の本質を見抜く力/批判する思考力
- (3) 気持ちや考えを表現する力
- (4) 多様な価値観をみとめ、尊重する力
- (5) 他者と協力してものごとを進める力
- (6) 具体的な解決方法を生み出す力
- (7) 自分が望む社会を思い描く力
- (8) 地域や国、地球の環境容量を理解する力
- (9) みずから実践する力

### 2 研究のねらい

洪野小学校は徳島市南部に位置し、勝浦川や広大な湿地等の豊かな自然環境及び国の史跡である洪野丸山古墳や重要文化財に指定されている丈六寺等の文化財を有している。この地域の宝を ESD の視点で教材化し、子どもたちに「ふるさとへの愛着と誇り」を育む一連の学習プログラムとして実践することによって、その有効性を検証する。また、校内にデジタルサイネージを活用した「学びの廊下 (通称名)」の設置が、学校・家庭・地域社会が互いに情報を共有し、共に学びあう地域協働推進にどのように寄与するかを検証する。

### 3 研究の実際

#### (1) 用水・河川・海の連続性を探る生物調査 ア 概要

- ・学校近くの洪野用水で、両側回遊 (普段から淡水域で生活していて、産卵も生まれも淡水域だが、生活史の一部で一旦海に降り、再び川をさかのぼるもの) の生活史を送る「ミナミテナガエビ」が発見された。このことから、「もしかしたら、学校前の用水は海とつながっているのではないか。」という疑問が児童に生じ、その疑問を解決するため、様々な方法で洪野用水の生物調査を実施した。
- ・生物調査の結果、ミナミテナガエビと同じ両側

回遊の生活史を送る「ミゾレヌマエビ」を渋野用水で多数採集することができ、渋野用水が海とつながっていることを水生生物から立証することができた。

・また、どのような経路で、海から約10kmも離れた渋野用水をミゾレヌマエビは遡上して来るのか、フィールド調査を行い検証した。

#### イ 成果及び評価

・調査活動を通して、用水に生息する生物のつながり及び多様性に気づき、そこから学ぶことで醸成される「ふるさと渋野」への誇りを持つことができた。

・ミナミテナガエビ、ミゾレヌマエビの生活史調査を行うことによって、児童の自然認識が高まり、生物多様性に関する学びが深まった。

#### (2) 地域清掃活動

用水生物調査の学習過程で、子どもたちは用水の中に散在しているごみの存在に注目し、ゴミ問題を解決すべく保護者・地域の方々に呼びかけ、地域清掃活動を実施した。さらにごみを種類別に分類して、用水のごみを定量化することによって、ゴミ問題の傾向を分析し、地域の方々と一緒に「ごみはどこから来て、どこへ行く」をテーマに話し合いを行った。この活動を通して、自分たちのまわりにあるゴミ問題を振り返り、解決に向けたアイデアを地域の方々と共に出し合い、よりよい方策を講じていくことができた。

#### (3) タンポポ調査（現在実施中）

身近な植物であるタンポポは、大きく分けて外来種と在来種があり、それぞれの種類が好んで生える環境が違っており、その割合が環境をはかるものさしになる。そのため、タンポポを調べることによって、身のまわりの自然環境の健康診断を行うことができる。

#### ア 調査の目的

①地域に生育するタンポポの種類と分布を明らかにする。

②タンポポの分布を記録し、「タンポポ調査・西日本2010」の結果と比較する。

#### イ 成果及び評価（中間報告）

現在、タンポポの分布図を作成中であるが、このタンポポ調査の活動を通して、参加者の輪が子どもから保護者そして地域の方々へと広がっている。採集したサンプルをもとに校区の分布図を作成し、徳島市全体・西日本全体の分布図と比較することによって、校区の自然環境の健康診断へとつなげたい。

#### (4) 持続可能な未来の町づくりプラン

##### （現在実施中）

これまでの活動をまとめることによって、未来の町を「①自然環境のすがた、②多様な生き物、③地域とのつながり」の三つの観点でとらえ、保護者・地域の方々に参観日やオープンスクール等で持続可能な町づくりを提案する。

#### (5) 「学びの廊下」の新設

40インチ液晶テレビと超小型PCを接続した簡易デジタルサイネージ（電子看板）を廊下に設置し、各学年の学習・PTA活動・地域社会の行事等について子どもたちが写真や動画を組み合わせ、ナレーションを入れたコンテンツを制作し、全校児童・保護者・地域の方々へ情報番組として提供している。この取組によって、学校・家庭・地域社会が互いに情報を共有し連携を深め、子どもの「生きる力」の育みへと大きく寄与している。

## 4 研究の成果と課題

平成26年度から始めた実践であり、また現在も進行中の取組があるため中間報告として、研究の成果と課題を述べる。

#### (1) 成果

・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある児童の割合が増加した。

・地域や社会を良くするために何をすべきかを考える児童の割合が増加した。

#### (2) 課題

地域社会を構成する企業が専門的な側面から学校の教育活動を支援できるように、教育現場において企業の教育CSR活動を受け入れる体制づくりを構築する。